

総合工学委員会 総合工学企画分科会（第 26 期・第 1 回）
議事要旨

日時 令和 6 年 3 月 12 日（火） 11：00～12：00

会場 遠隔会議（ZOOM）

接続先 URL:

<https://us02web.zoom.us/j/83875523401?pwd=UVBXcUVNcFR0SE5iR2NtcGg2MnhCdz09>

ミーティング ID: 838 7552 3401

参加者：* 名簿順、敬称略

玉田、宮崎、越塚、関谷、伊藤、岩城、梅田、小田山、竹内、武田、永井、坂東

欠席者：川原

議題

（１） 自己紹介

名簿順に委員より自己紹介と共に、委員会活動への抱負などが述べられた。

（２） 役員の選出

委員長、玉田委員

副委員長、宮崎委員

幹事、越塚委員および関谷委員

が就任することが、満場一致で了承された。

（３） 議事要旨の提出に関する委員長一任について

議事要旨に関する軽微な改訂および提出については、委員長一任として了承された。

（３） メール審議の取扱い（分科会委員間のメールアドレス共有について）

委員のメールを共有することについて、満場一致で了承されて、承認された。欠席した川原委員については関谷より確認する。

（４） 分科会の目的及び方針

分科会の設置提案書に基づき、玉田委員長より、設置目的について紹介された。その中で、総合工学委員会の直下にある企画分科会の設置目的の紹介があった。また特に、今期

では総合工学特有の分野横断的な視点に鑑みた国際競争力の強化につながる方針などについて説明がなされた。

続いて小山田委員より第25期の見解「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 総合工学分野 ～社会課題に立ち向かう総合工学分野の人材育成～」について紹介された。これまで我が国が経験してきた震災や様々な経験を通して、総合工学の重要性などが示された。特に、一つの学問分野にとどまらず、現場から学び、広い知識で学んでいくことの教育の重要性が示された。第25期に発出された見解の図1、図2などを用いて、前期の活動について紹介があった。

小山田委員の紹介を踏まえて、玉田委員長より、第26期の総合工学をどのように企画運営していくかについて改めてその重要な視点をご紹介された。特に、国際競争力強化をどのように進めていくかについての方針や具体的なアイデアとしてのフォーラム企画などの案が示された。

今後、第26期の目標を実現するための課題を絞り込み、議論することで委員の承認を得た。また議論を進める中で、必要に応じて、新たなメンバーを招聘し、議論に加わってもらう方針が確認された。

その後、本件に関する質疑が行われた。

質問：小山田委員

国際的な調査についての具体的な対象があるか？

玉田委員長

国際に強い委員で構成された分科会となっているので、委員からの情報をもとに対象を絞り込んでいく予定。

（５）公開シンポジウムについて

玉田委員長より、情報収集のためのシンポジウムと、意思の表出後の情報普及のための公開シンポジウムのいずれかを活動計画に盛り込みたいこと、その際に、可能であれば学会会議からの支援が受けられる「学術フォーラム」の形式を取りたいことについて説明があった。また学術フォーラムを開催する場合、来年度の後半に開催するのが妥当なスケジュールであることが示された。テーマ並びにスケジュールについては、今後改めて検討する。

（６）今後のスケジュール

上記の通り

（７）意見交換

玉田委員長：半導体も含めて総合工学として技術革新が進んでいる。国際的な競争力強化において前向きに学術会議が貢献できていない部分もあるので、具体的なテーマを絞り込んで進めていく必要がある。従来の考えにとらわれず、様々な方面から引用してもらえるようなクリアなメッセージを見解として出せるようにしたい。

小山田委員：国際連携の実例として韓国のプサン大学との連携協定を進めている。機械分野がメインであるが、その分野にとらわれず AI など多くの人材が参入して取り組んでいる。これらのプログラムを英語で進めていることを見ると、日本が国際化に遅れている印象がある。調査対象としての韓国を取り上げてはどうか。

永井委員：アメリカのロボット関係の学会では、多くの国が集まっている。AI ベースのリアルタイム翻訳機があり、自分の母国語でしゃべるのでより自由にお話できるようになっている。学会ですでに翻訳が使われており、言語にとらわれない形も模索できるのではないかな？

玉田委員長：これまでの議論は重要であり、国際競争力強化を大学の教育（長期施策）に落とし込むのか、あるいはそれ以外の活動を通じてより早急な対応を考えるのか（短期施策）などの視点も含めて重要である。

武田委員：IAEA 国連職員をしていた経験から、国連の同世代の方たちは野心的であるが、専門力、俯瞰力、挑戦心なども重要である。日本からもそのような世界に伍する人材の育成が不可欠である。大学のスタートアップにも取り組んでいる経験から、もっとスタートアップが学術界でも評価されていくべきであり、国際競争力に視点からも重要である。

越塚先生：IAEA では原子力分野の国際規格が作られているところであり、総合工学の重要なところである。さらに船舶や航空でも国際規格は重要である。核融合、宇宙、小型炉なども含めて総合工学の各分野においてスタートアップがますます重要になっている。

永井委員：スタートアップの仕組みが立ち遅れている。シード期の資金調達の仕組みなども含めてどのようにするのか？など制度そのものに我が国は課題があるように感じている。

竹内委員：日本の研究レベルが低いのではなく、研究環境を良くしていく必要がある。研究者の QOL を上げていくなど。留学の制度（休学しなくても出かけていく）などの整備も必要。スタートアップの成功例が出ていくことも大切。

伊藤委員：社会的成熟が重要である。優秀な若い人材が社会に出ても、活躍できない環境がある。社会にもっとダイバーシティーを加えていく必要がある。また人文社会学系なども含めて技術の中に入れていく必要がある。

（８）その他

玉田委員長：本日の議論の内容、それ以外のアイデアについて、アンケートで情報収集する。アンケートで得られた情報をもとに、今期計画を具体化する。

アンケート内容案：

- ・（総合工学分野の）国際競争力強化に関する「見解」で取り上げるべきテーマについてのご意見/アイデア
- ・国際調査で提供できる、あるいは提供できる可能性のある、あるいは海外動向調査で興味のある対象国、対象機関等に関する情報
- ・シンポジウムあるいは公開フォーラムとして実施してみたいテーマと時期
- ・その他、自由なご意見

以上

資料

- 開催通知（総合工学企画_1）
- 第 26 期総合工学企画分科会設置提案書
- 第 26 期総合工学企画分科会名簿
- 第 25 期見解